

【本件リリース先】
9月19日(金) 15:00
(資料配付)

福島県政記者クラブ、
経済産業記者会、
文部科学記者会、科学記者会、
原子力規制庁記者会(仮称)



平成26年9月19日
独立行政法人日本原子力研究開発機構

櫛葉遠隔技術開発センターの安全祈願祭及び起工式の開催について (取材案内)

独立行政法人日本原子力研究開発機構(理事長:松浦祥次郎)は、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の廃止措置に向けて、遠隔操作機器・装置の開発実証施設を整備し研究開発を遂行するため、昨年4月に福島廃炉技術安全研究所を設置し、福島県櫛葉町内への施設建設に向けて取り組んで参りました。

今般、遠隔操作機器・装置の開発実証施設である櫛葉遠隔技術開発センターの設計等の諸準備が整いましたことから、施設建設工事に着手することとなりました。

つきましては、下記のとおり安全祈願祭及び起工式について取材のご案内をさせていただきます。

1. 日 時 : 平成26年9月26日(金) 11時15分より
2. 場 所 : 福島県双葉郡櫛葉町大字山田岡字仲丸一番二十二号 外
櫛葉遠隔技術開発センター建設予定地内(櫛葉南工業団地内)
3. 次 第 : 安全祈願祭 11時15分~11時45分
起工式 11時45分~12時15分
4. 主な出席者: 経済産業省、文部科学省、復興庁、福島県、櫛葉町 他
5. 集合時間及び集合場所 : 別紙案内図参照
11時00分までに会場前に集合して下さい。
6. その他
取材を希望される方は、別紙取材申込書を9月25日(木)15:00までにFAX等でご一報いただければ幸いです。(送付先 FAX 番号 024-524-1073)

以上

【本件に関する問い合わせ先】
独立行政法人日本原子力研究開発機構

(施設に関する内容)

福島廃炉技術安全研究所 研究計画部 研究計画課 大岡 誠 TEL:03-3592-2950

(報道担当)

福島事業管理部総務課 眞鍋、吉田 TEL:024-524-1060、FAX:024-524-1073
広報部報道課 中野 裕範 TEL:03-3592-2346、FAX:03-5157-1950



(別紙)

平成 26 年 9 月 日

楢葉遠隔技術開発センターの安全祈願祭及び起工式の開催について
<取材申込書>

送付先

日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島事業管理部 総務課 行

(FAX 024-524-1073)

報道機関名 _____

(連絡先電話番号)

取材者氏名

所属	氏名

【案内図】

○住所

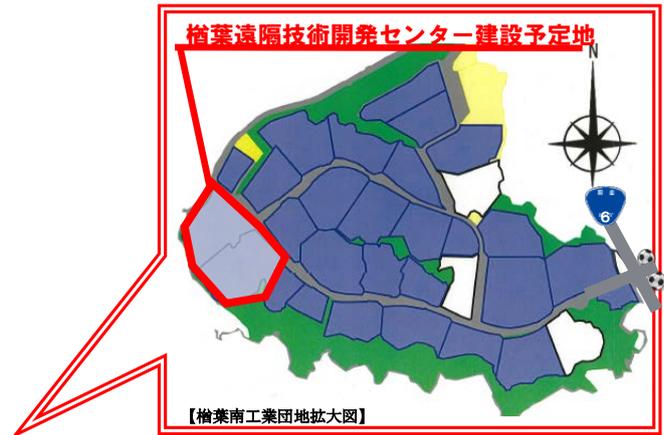
福島県双葉郡楡葉町 大字山田岡字仲丸一番二十二号,外
(楡葉南工業団地内)

※会場では、現地誘導員の指示に従って駐車願います。

○いわき駅からタクシーで45分

○JR 常磐線 木戸駅より車で7分 2.4km

○常磐自動車道 広野 IC より10分 3.4km



※国土地理院 電子国土より

櫛葉遠隔技術開発センターの概要

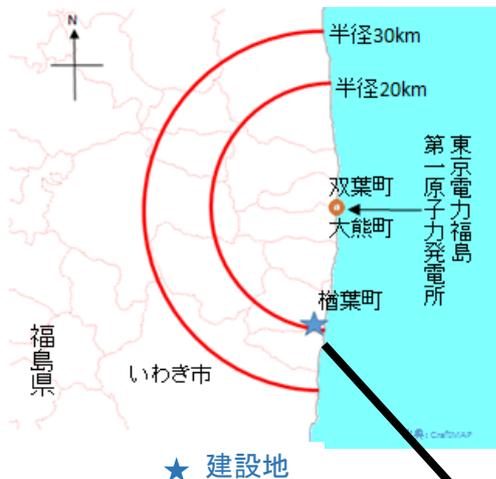
1. 目的

- 福島第一原子力発電所の廃止措置¹⁾に向けた研究開発を加速するため、原子炉格納容器²⁾下部の冷却水漏えい箇所補修技術の実証試験、遠隔操作機器等に関する技術基盤確立のための開発実証試験用の施設を整備する。

2. 基本的な考え

- 放射性物質は持ちこまない。
- 廃止措置に必要で多様な試験に、できる限り対応可能な施設とする。
- 国内外の研究者等が利用しやすい施設運営を目指す。
- 幅広い専門分野の研究者が知見を持ち寄り、研究開発が実施できる体制の構築、国際共同研究、海外人材の受入れ、人材育成、地域との共生等についても考慮する。

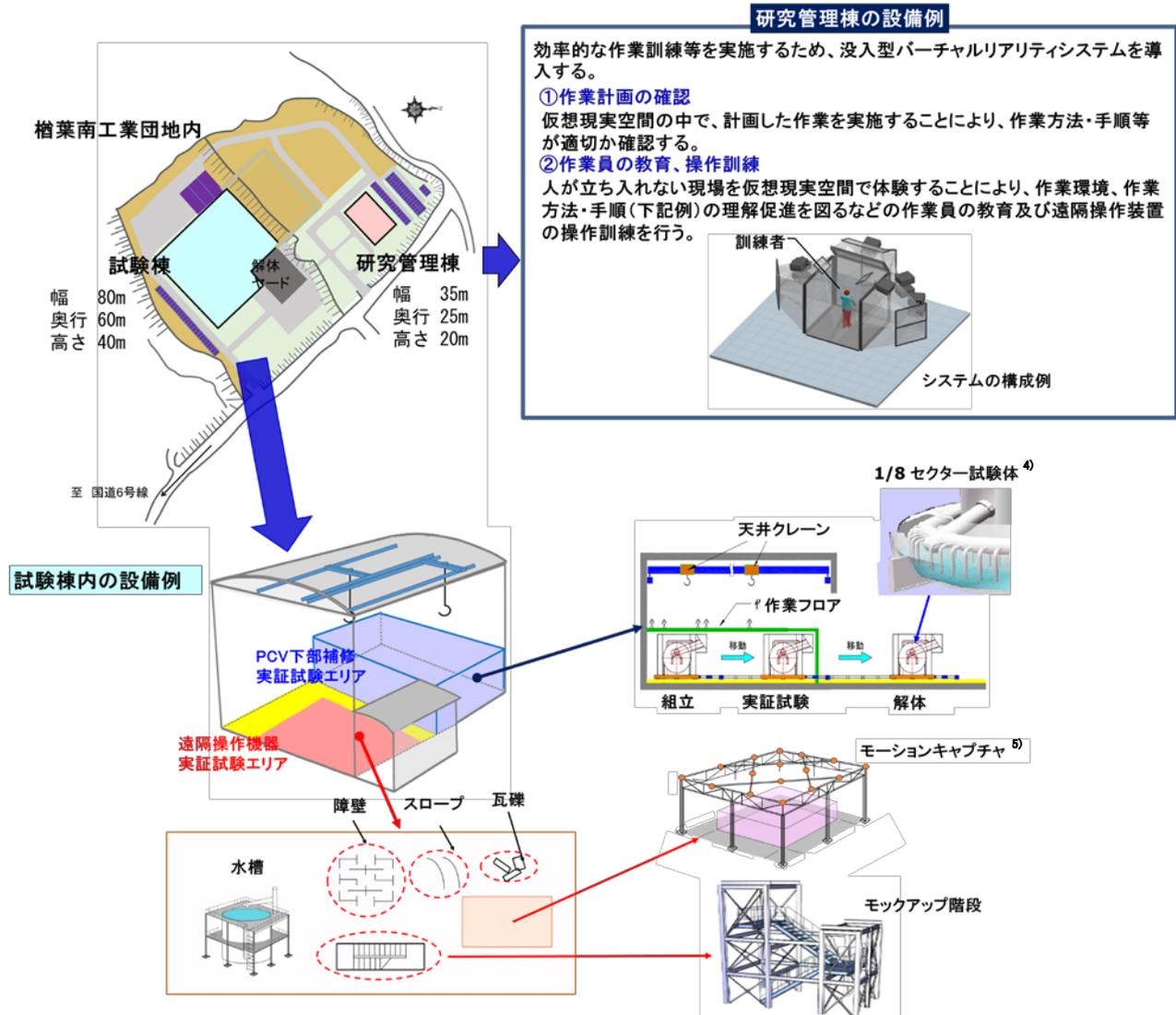
3. 建設場所



櫛葉遠隔技術開発センター
 用途: 遠隔操作機器の開発・実証
 場所: 櫛葉町(櫛葉南工業団地)
 竣工予定: 平成 27 年度末
 一部運用: 平成 27 年夏(予定)
 本格運用: 平成 28 年度(予定)



4. 施設配置図



5. 施設の概要

【研究管理棟】

- ・鉄骨造、地上4階、延べ面積 3,661m²
- ・施設利用者や原子力機構の居室及び会議室、作業員訓練システム等を設置する他、遠隔操作機器による作業手順の検討や作業員の訓練を行うための最新のバーチャルリアリティシステム³⁾を設置する。

【試験棟】

- ・鉄骨造、地上2階、延べ面積 6,326m²
- ・原子炉格納容器下部の冷却水漏えい箇所補修技術の実証試験及び原子炉の建屋内の調査、除染等のために必要な遠隔操作機器の開発実証試験を実施するための各種試験設備を設置する。

6. 整備スケジュール



【用語解説】

1) 原子炉施設の廃止措置

原子炉から使用済燃料等を取り除いた後、原子炉施設を安全に解体したり、汚染の除去や汚染した物を廃棄したりすること。

2) 原子炉格納容器

原子炉とその冷却系設備などを収容する原子炉安全上重要な建造物。気密・耐圧構造になっており、原子炉の事故などの際に、放射性物質が外部に放出されるのを防ぐ役目をする。

3) バーチャルリアリティシステム

実際の物体や環境をコンピュータによって仮想空間内に生成するとともに、人の行動もリアルタイムに反映させることで、現実の空間及びそこでの行動を疑似的に体験できる環境を提供するシステム。

4) 1/8 セクター試験体

円形の原子炉格納容器下部のうち、1/8の扇形部分を再現した実寸大の模擬試験体。

5) モーションキャプチャ

三次元空間における人体や動物の動きをデジタルデータとしてコンピュータに取り込む手法のひとつ。